

二〇〇六年釜山国際映画祭雲波賞受賞作品（最優秀ドキュメンタリー賞）

私たちの学校

우리 학교

韓国の映画監督が、北海道朝鮮学校に通う生徒と教師の強いきずなや、民族学校に子どもを通わせる親の思いを描いたドキュメンタリー

現在、60ヶ所あまりある朝鮮学校は、60年間維持運営されている。朝鮮人に生まれたことを隠すことなく、恥ずることなく、植民地支配により奪われた人間としてのプライドをとりもどし、それを持ち続けたいという小さな願いは、今なお日本では果たせないままである。それでも人々は笑顔でそのバトンを引き継ぎ、「우리ハッキョ」を大切に守り育てている。

日時：2013年 **2**月 **10**日（日）

10:00 (9:30開場) 13:00 (12:30開場) 16:00 (15:30開場)

場所：市民活動センター 504研修室
(松江市白湊本町 スティックビル)

入場料：500円

主催：우리ハッキョ上映実行委員会・松江キネマ倶楽部

お問い合わせ：090-3638-5438

今日も元気だウリハッキョ! 朝鮮学校をもっと知ろう!

「ウリハッキョ」紹介

“1945年終戦直後、日本の地に建てられた朝鮮人の民族学校
—朝鮮学校=「ウリハッキョ」（私たちの学校）”

植民地支配からの解放を日本で迎えた朝鮮人たちは、故国朝鮮への帰国を急いだ。しかし、36年間にも及ぶ植民地支配により、日本人として生きざるを得なかった朝鮮人の父母は、朝鮮名も、言葉も知らない子どもたちが、故国へ帰って不便のないよう、何よりも先に学校（国語教習所）を建てた。それが現在も全国に存在するウリハッキョの原点である。現在、60ヶ所あまりある朝鮮学校は、60年間維持運営されている。朝鮮人に生まれたことを隠すことなく、恥ずることなく、植民地支配により奪われた人間としてのプライドをとりもどし、それを持ち続けたいという小さな願いは、今なお日本では果たせないままである。それでも人々は笑顔でそのバトンを引き継ぎ、「ウリハッキョ」を大切に守り育てている。

“朝鮮人は朝鮮学校に通わなければならない”

朝鮮の子らの‘勇敢な’登校が始まる!

日本の地に生まれ育ったけれど、‘朝鮮人としての私’を守るため、日本の学校ではない‘朝鮮学校’という勇敢な選択をした子どもたち。この子らは、国籍よりも前に‘朝鮮人’としての誇りを、何よりも胸に刻む。

“‘互いの山’になって生きていく

朝鮮学校子どもたちのビルディングストーリー”

‘ウリハッキョ’の子どもたちがウリマル（朝鮮の言葉）よりも先に学校で学ぶもの、それは互いを理解し、愛すること—‘共に生きる’ことの大切さである。だから特別であり、だから幸せな子どもたち。この、健気な子どもたちの勇気が、あなたの心を揺さぶる—

“辛いときは、いつでも‘ウリハッキョ’にいらっしやい!”

友達のようなソンセンニム（先生）が、心から贈る大切な約束!いつも変わらない姿で、子どもたちの頼もしい友でいてくれるソンセンニムの存在は、‘ウリハッキョ’が特別であるもう一つの理由である。‘ウリハッキョ’を巣立っていく卒業生を前にして、これから出会う様々な現実と胸が詰まるソンセンニムたちの、心から贈る言葉は涙を誘う。

撮影期間3年、編集期間1年6ヶ月

北海道朝鮮学校の子どもたちとの、格別な出会いと記録

キム・ミョンジュン監督は、映画のために3年間北海道朝鮮初中高級学校に寝泊まりした。ソンセンニムたちとはすぐにも親しくなれたが、ウリマルに慣れない子どもたちと打ち解けるようになるには、1年余りの時間がかかった。休校日になると帰省で寮生もいなくなり、一人ぼつんと残る監督のために、さりげなく食事を届けてくれたソンセンニムたち。‘ミョンジュン兄’は自然体が好きだからといって、朝鮮学校の学生として生きていく率直な気持ちを打ち明けてくれた子どもたち。彼らとの格別な交感、映画の編集だけでも1年6ヶ月という時間を必要とした。



朝鮮学校をもっと知ろう!

部活、学校行事、授業や休み時間、寮生活、そして朝鮮への修学旅行などなど、朝鮮学校に通う生徒たちのリアルな日常が満載のドキュメンタリー映画です。知っているようで知らない朝鮮学校のいろんな表情に、あなたもぜひ会いにきてください。

DIRECTOR

この『ウリハッキョ』という作品は、キム・ミョンジュン監督が、急逝した妻であり映画監督であった故チョ・ウンリョンの企画を引き継いだ作品である。元々、この映画を企画していた女性監督、チョ・ウンリョンが「在日」というものに関心を持ったのは2000年の8月。偶然ある新聞で「総聯vs朝総聯」というタイトルの短い記事に接し、同時期にテレビ放送された民族学校に関するドキュメンタリーを見たのがきっかけだったという。以来、彼女は「在日」というテーマに使命を持って取り組んでいて、その第二作目になるはずだったのが、この『ウリハッキョ』だった。しかし、チョ・ウンリョンは2003年に不慮の事故で亡くなり、その遺志を引き継いだのが、夫であり撮影監督だったキム・ミョンジュンだった。